

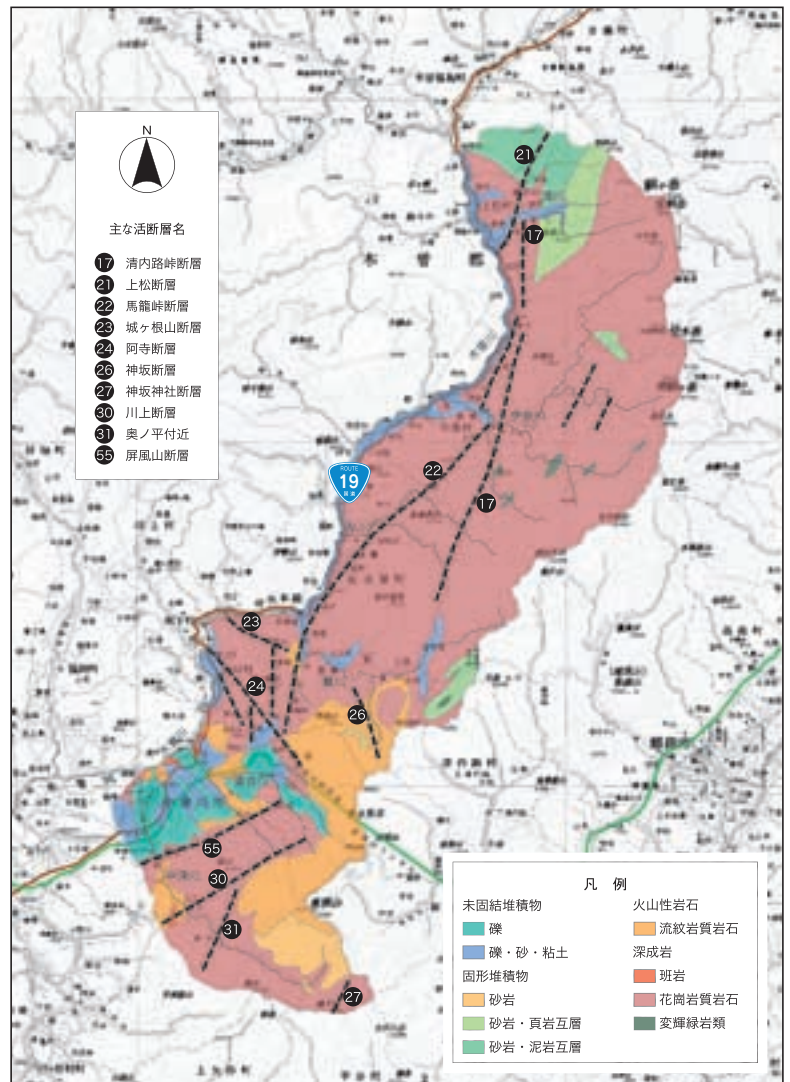
木曽川水系の概要

木曽川は、その源を長野県木曽郡木祖村鉢盛山（標高2,446m）に発し、古来から木材（ヒノキなど木曽五木）の産地として名高い木曽谷を南南西に流下し岐阜県中津川市に入り落合川・中津川・阿木川・飛騨川等の諸川を合わせ、愛知県犬山市で濃尾平野に出て南西に流下します。その後長良川と併流して伊勢湾に注ぐ、流域面積5,275km²、幹川流路延長229kmの一級河川です。

木曽川直轄砂防区域は、長野県の木曽谷から岐阜県中津川市に至る木曽川の左岸川に位置し、南北42km、東西10km超となる流域面積約538km²となります。

もろい地質と急な斜面

東部の駒ヶ岳・空木岳・摺古木山から東南端の恵那山に連なる標高1,500m～3,000m級の木曽山脈（中央アルプス）に囲まれた、急峻な壮年期の大起伏山地となる山岳地帯です。また、地形が急峻であることに加え、地質的には山岳部の中央が新期花崗岩（領家変成岩）及び石英斑岩から成り風化が著しく、複数の断層が発達・併走し崩壊土砂の生産が活発な地域となっています。



出典：土地分類図（長野県）国土庁土地局国土調査課 昭和49年



中央アルプスから流れ出る支川溪流（滑川）

急流河川と河岸段丘が連続してつながる地形

上流部は河岸段丘が連続してつながる地形で、段丘面に人口や資産が集中しています。さらに、3,000m級の山々が連なる中央アルプスから流れこむ支川は急勾配です。

このため、洪水時には支川から大量の水と土砂が一気に本川に流れ込み、ひとたび氾濫が起ると甚大な被害が発生します。

木曽川上流域の河川縦断面図

